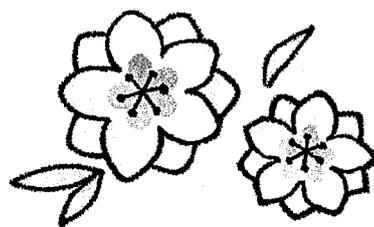


目 次

I はじめに					
	名古屋市国語研究会委員長	清水	智子		
II 研究報告					
1 話すこと・聞くこと					
	牧野小	水原	悠輔	1	
	守山小	大澤	佳枝	3	
	守山小	戸田	元輝	5	
	浦里小	瀬瀬	祐輝	7	
	港北中	長瀬	卓也	9	
2 書くこと					
	千石小	厚東	彩	11	
	八事小	橋詰	玄生	13	
	瑞穂小	藤井	雄介	15	
	野立小	釘本	優哉	17	
	大宝小	大野	貴子	19	
	相生小	石田	千智	21	
3 読むこと（小学校）					
	宮根小	樋口	稜太	23	
	金城小	坪井	大典	25	
	千成小	兼平	康成	27	
	八社小	岡田	真奈	29	
	大須小	川出	祐樹	31	
	村雲小	山本	貴紀	33	
	鶴舞小	吉田	裕幸	35	
	高田小	澤田	彩也香	37	
	高蔵小	土田	虎生輝	39	
	春田小	西脇	陽介	41	
	万場小	濱崎	讓	43	
	宝小	榊原	裕真	45	
	大生小	西脇	僚	47	
	大森小	川嶋	大介	49	
	桃山小	亀山	治夫	51	
	西山小	川本	紗矢音	53	
4 読むこと（中学校）					
	東港中	水谷	匡希	55	
	大江中	酒徳	有衣	57	
	森孝中	帯金	徹	59	
	鳴海中	上條	貴史	61	
5 言語・書写					
	陽明小	大久保	友貴	63	
	南陽小	横井	麻乃	65	
	山田東中	清本	直樹	67	
	昭和橋中	長谷川	恭平	69	
	本城中	梶野	和希	71	
III 編集後記（編集委員名簿）					



はじめに

名古屋市国語研究会委員長

清水 智子

令和5年9月に「ナゴヤ学びのコンパス」が策定されました。いよいよ令和6年度からそれぞれの学校で新しい学びの在り方を具現化することとなります。「子どもは有能な学び手」であり、教師の役割は「子どもの学びに伴走すること」。私たちは、そのことを念頭に、新しい授業づくりについて考えて参りました。

昨年度、早稲田大学教授の藤井千春氏のお話をお聞きする機会がありました。そこで教えていただいた「教師の役割観の転換」という言葉が大変印象に残っています。これからの教師の役割は、子どもの心に火をつけ、「学びたい」という意欲をかき立てること。そして、課題を指摘し、「こんなことが学べたね」と価値付けをして成長を実感させることだと学びました。子どもの感情に共感し、成長や可能性の評価を行うことができる教師が、「授業力のある教師」なのだと藤井氏は語っていらっしゃいました。

予測困難な社会を生きる子どもたちが、「自律した学び手」すなわち「自分で考えて生きていける人」となるために、私たち教師は変わらなくてはなりません。

この研究集録には、そのような教育課題と真摯に向き合い、子どもたちと一緒に新しい国語教室を創造しようと、悩みながらチャレンジをし続けた先生方の姿が、子どもたちの変容とともに記されています。子どもたちとともに学び続ける、「学びのプロ」である先生方に、心からの敬意と感謝をお伝えします。

子どもが自分自身の学びを自分の言葉で語り、周りの子どもたちがそれを聞いて一緒になって考え始める。友達をつぶやきに温かく応答し、考えが深まっていく。そんな学びが実現できる国語教室が、名古屋市の随所で見られるようになることを切に願います。